

会派視察・研修報告書

会派名 公明党

代表者名 寺島 芳枝

1 日にち	令和7年10月9日(木)10日(金)
2 視察先 研修名、主催者及び会場	第87回全国都市問題会議 主催:全国市長会など 会場:ライトキューブ宇都宮
3 参加者	寺島 芳枝 片山 竜美
4 調査・研修の テーマ	成熟社会の都市のかたち～コンパクトで持続可能なまちづくり～
5 主な内容	<p>① 基調講演 広井良典 京都大学名誉教授</p> <p>② 主報告 佐藤栄一宇都宮市長</p> <p>③ 一般報告 南学 東洋大学国際 PPP 研究所シニアリサーチパートナー 大西秀人 高松市長 森本章倫 早稲田大学理工学術院教授</p> <p>④ パネルディスカッション</p>
6 所感、提言事項、課題等	<p>【寺島芳枝】</p> <p>開催市である、宇都宮市長 佐藤栄一氏による～100年先も発展できる「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成～の主報告は、規模は違うが、人口増加に伴い、郊外に拡散してきた多治見市との類似点がある。</p> <p>人口減少社会においては、中心市街地の活力の低下や、空き家・空き地の増加、交通空白地域の増加、地域コミュニティの衰退といった様々な問題が懸念されている。</p> <p>多治見市においてもこの問題意識は共通しているが、宇都宮市は総合計画基本構想において、「ネットワーク型コンパクトシティ(NCC)」を長期的なまちづくりの方向性として全国に先駆けて位置付け、今後これまでに経験したことのない急速な少子高齢化、生産年齢人口の減少が見込まれる中でも100年先も発展し続けられるまちを実現するために、NCCの形成の取組みをされてきた。その中に公共交通ネットワークの構築がある。</p> <p>基幹公共交通「ライトライン」の整備は、全国初の全線新設の次世代路面電車である。受講後に乗ってみたが、まず低床であり、騒音や振動が少なく、キャッシュレスと現金を扱い、誰もが利用しやすい、しかも燃料は、地域新電力会社が供給する家庭ごみの焼却のよるバイオマス発電などの地域由来の再生可能エネルギーのみで走行する「ゼロカーボントランスポート」で、人と環境に優しい運行の実現をしている。</p> <p>総利用者は予測を1.3倍上回り、整備の効果は沿線人口の増加、地価の高騰などを生み出している。さらに40歳以上の住民の1日当たりの平均歩数が207歩増加し、それによる医療費抑制効果は、約16億円～18億円と推計している。公共交通機関を利用することにより、歩く機会が増加</p>

し、健康維持につながるという新たな視点もあった。2億円の黒字で、他の地域内交通やバス路線の再編や全国初の地域連携ICカード「totoro」を導入し、乗り継ぎ運賃割引制度の導入により、より便利に安く市民の移動の確保につながっている。

素晴らしい成果を実現するに当たり、1600回の市民説明会の開催など、100年先も…との信念のもと、やりきってきた首長の言葉には、未来の希望があり、わくわくした。岐阜県の構想も動き出しているようである。全世代を見据えて100年先も持続可能な事業であるとの視点を学ばせてもらった。どう生かしていくか、今後市民との対話集会なども開催されるので、共に未来を模索していきたい。

【片山竜美】

① 基調講演「人口減少・成熟時代の都市とまちづくり」

・人口減少をネガティブにとらえるのではなく、「地域の良さ、あるもの探す」プラスの価値を見い出す、ポジティブに考えていくことが大切である。

・特に現代は若者がローカル志向にあり、地方の魅力を引き出す工夫や努力が必要である。

② 主報告「人口減少社会に対応する都市の構造改革」

・次世代のために、今苦しいかもしれないが、やるべきことをやっておくことが大切であることを強調されていた。

・そのために100年先を発展できる「ネットワーク型コンパクトシティ」を形成すべく取り組んできたし、今も取り組んでいる。

③ 一般報告

・南学氏：縮小しても機能の充実につながれば、むしろポジティブな将来像も描けるとする「縮充」という造語をつくり、推進している。

・大西市長：持続可能なまちづくりのために、行政は地域の主体的な動きを支える「伴走型パートナー」として取り組んでいる。

・森本氏：いかに中心市街地・居住誘導地域に人を集めるか。そして、その地域に適切な交通網をいかに構築するか。これからの自治体の取り組むべき課題である。

・森本氏：コンパクトシティを目指すには、集中エリアではウォーカブルなまちづくりをし、都市部では次世代公共交通を導入する。郊外ではライドシェアできる自動運転車を先行で導入する。

④ パネルディスカッション

4名のパネリストにより、「移動したいときに移動でき、しあわせに生活を送れるためには」「まちの中の拠点づくり」「地域内外のつながりについて」などについて意見が交わされた。

<所感>

・発表者すべてが、共通して語っていたのが「次世代のために、今やるべき

ことをやる」であった。そのために50年先を見据えて取り組んでいることが分かった。

- ・また、当然、反対意見もあるので、市民と徹底して対話し、意見交流を重ねることが重要である。
- ・一市民として、50年先の未来も考えて、政策の一つ一つを考えていかねばと思った。
- ・宇都宮市のライトレールについても、市長が1200回を超える市民との対話と国、県との連携で、完成にこぎつけた。実際、成功を収めているのは見事である。
- ・中小都市である米子市の今後の取組に注目したい。
- ・多治見市もコンパクトシティを目指しており、各自治体と同じような課題がある。いかに公共交通を維持し、市民が楽しく快適に過ごせる環境をつくるか、本当に難しい課題である。

7 写 真 等
 ※視察の場合は必須、研修の場合は任意



※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。